



視線を海にいざなうために設けた壁は、レフ板のように光を集め反射する。



白い壁が光を受けて、まるで青空に浮かぶ豪華客船のような印象を受ける。

オーナーは非常に向上心が強く、とにかく最高のものを作りたいという気持ちの強い方でした。そして海への視界をまず活かしながら、都会的なセンスを採りいれたいというご希望があり、ゲストを招いて楽しむための様々な要素、プールやオーディオルームなど、もてなしのための工夫がなされています。清々しい白亜のゲートは建物沿いにドラマティックにラウンドして、地階の駐車場へと続き、白い外観は光を受けて、青い空に浮かんでいるような印象を受けます。三層吹き抜けのエントランスには明るい陽光が存分に注ぎ込まれ、リビング・ダイニングからは遮るものがない、絶景の大海原が目の前に広がります。素晴らしい建築物には一貫したテーマ性が必要だと思えます。この家は自然光の差し方に配慮しながら、建物を少しせり出したことで叶えた、海・山・光の壁に つつまれる感覚が内外一体の浮遊感を生み出します。自然と一体になれる感覚を大切にしたい、最高のリゾートハウスになりました。」

1. 窓外に水盤を配することで周辺の景色を遮り、絶景だけが目に入るデザイン。
2. 屋上からの丸い天窓から存分に陽光が降り注ぐ明るいプール。
3. シックなインテリアの地階のプレイルームからは愛車を愛でることも出来る。
4. 外界との視界を遮ることで、落ち着いた雰囲気を持つ囲炉裏のある和室空間も用意。
5. 三層吹き抜けになったエントランス。ビッグマーリンのオブジェがリゾート気分を盛り上げる。

「オーナーがどういう思いで家を建てたのか、それを理解していく方法は様々です。家を建てようという方は、それぞれに憧れのイメージを持っていると思いますが、その要望に様々な付加価値を付けていくのが私たちの仕事ですね。要望を理解した上で、常に提案型でいたいと思っています。海を見下ろす高台にあるこの土地は、三浦半島から伊豆まで270度見渡せる絶景の場所であり、この海を見渡す視界を優先して設計を行いました。」

絶景の視界、
光と自然の中を浮遊する
ドラマティックな空間

海への視界が開けた家

BY KOICHI ODAKA

設計/アーネストアーキテクト株式会社 尾高光一



建物が少しせり出す位置にあるため270度の絶景が素晴らしいリビング。

ギリシアの島にあるような清々しい白亜のゲートがゲストを迎えてくれる。



シンプルでクラシカルな装飾が施された外観。夜はライトアップされた門扉が美しい。

アンティーク家具が似合う住宅

BY TOMOYAITABASHI

設計/アーネストアーキテツ株式会社 板橋友也



1. 日当たりが抜群の親世帯のリビングは愛犬のお気に入りの場所でもある。奥はダイニングへと続く。2. ゆったりとした親世帯の寝室。朝は太陽の光に包まれる。3. 光によって表情の変わる子世帯の寝室は色違いのクロスを二種類使用。4. 白で統一されたキッチンには様々な装飾やモザイクタイルがアクセントになっている。5. 遊び心を探り入れた子世帯のレストルームは赤と金の配色でインパクト大。



「オーナーへのアプローチは、普段の生活に入り込み、深いところまで理解していく作業が必要です。まずは、ご家族との日常的な会話や生活パターンを聞き出すことから始めますね。最初の段階で、どういう空間を作りたいのかをお聞きしますが、どうしてそういう発想になったのかという過程も重要です。たとえば、途中で内容が180度変わってしまったりというケースもあります。最初の段階ではモダンな建物のご希望を口にしていたとしても、話をしていくうちに、本当はモダンなものはいらない、好きではなく、クラシカルでエレガントな建物を求められていたということがわかる場合もあります。ですから、本人になり代わって、心の底から欲しているものを引き出してあげ

内外に散りばめられたクラシカルな装い
異なる世界観を調和させた二世帯住宅

ることが大切です。

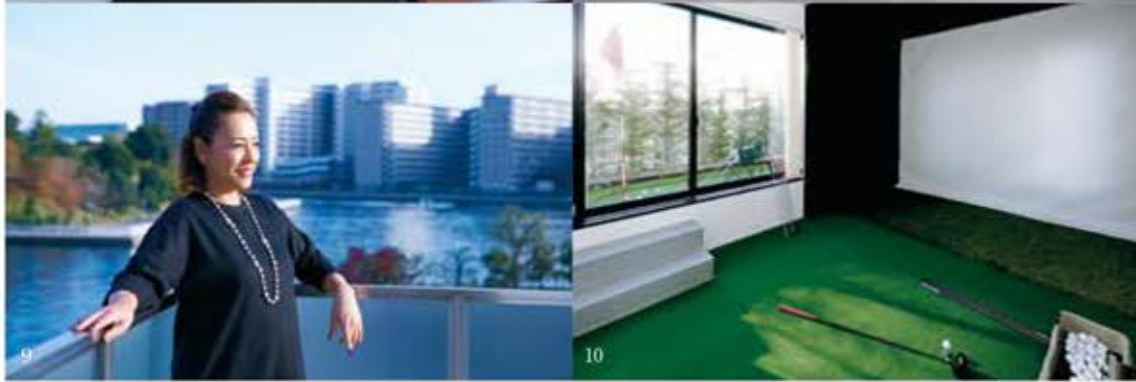
今回のケースではオーナーのコンセプトがしっかりしていましたので、それを理想的に調和させる作業が必要でした。親世代、子世代それぞれの世界観を尊重するために、クラシカルやエレガントな要素を強調するデコラティブなモールドディングなどもあまりやりすぎないように配慮しました。オーナーがアンティーク家具の収集家でしたので、以前からお持ちの調度品などを配置した際に、それを活かすような天井からの光の取り入れや、クロスのセレクトなども重要でした。外観ではクラシカルな建物に必要なとされるシンメトリィ性を使った窓の位置やスリットを配し、調和のとれた美しい建物が完成しました。」



調度品を活かすために天井から柔らかな陽光が降り注ぐエントランス。



3. キッチン収納式の格子の扉を引き出すと、部屋が一気に和モダンの雰囲気。
4. リビングと隣接するダイニングからは時間帯で全く違う景観を楽しむことができる。



5. 4台の車が収納されているガレージ。AV ルームからは愛車を眺められる仕様に。6. 対面式のキッチンは広くとても機能的。背後のパントリーも収納を重視している。7. 二階には事務所が入っているため良く打ち合わせに選手が訪れると言う。8. モダンテイストで落ち着いた雰囲気のある主寝室。9. 開放的なテラスに出ると川面の光や周囲の樹木から自然を十分に感じられる。10. シミュレーションゴルフを楽しんだりバレーを練習できるコーナーも設置。

アーネストアーキテクト株式会社 TEL 03-3769-3333 <http://earnest-arch.jp/>

アーネストアーキテクト

尾高光一

都会の運河沿いの環境下で、落ち着いた、くつろげる空間を目指し、和モダンのテイストで全体を統一。ゲートにくぐると目に入るファサード、和室、キッチンを目隠しに黒い格子を使うことで、空間の印象を整えています。和モダンはバランスが重要です。この家はややモダンによせ、オリエンタルなアジアの要素も含んだ建物となっています。

住んでみてこうしておけばよかったという後悔もありません。住宅をお考えの方にアドバイスするなら、エレベーターは必要です。旅行カバンや大きな荷物がある時は本当に便利。もし、無かったら後悔していました(笑)。

運河沿いに佇む和モダンの邸宅

BY KOICHI ODAKA

設計/アーネストアーキテクト株式会社 尾高光一



広く明るいリビングでくつろぐ徳山さん。思い通りの家造りが出来て満足という。

1. 黒いタイルを使用したエントランスは和のテイストを醸し出す。
2. ゲートから少し長めのアプローチからはすぐに風格のある格子の建物が目に入る。



東京湾に近い運河沿いの風情が残るエリア。ゲートをくぐり、長めのアプローチを抜けるとファサードに黒い格子を配した和モダンの邸宅が姿を現す。運河を臨む開放的なリビングからは季節の移ろいを感じられる。ゴルフ関連会社を経営されているご主人と二人暮らしをしている徳山さん。二階を事務所にしていて、海外からの契約プロなどの来訪も多いと言う。「まずプロ選手が東京に来た時に気軽に泊まってもらえるよう、ゲストルームを作ろう」と主人と相談していました。会社を併設するので、プライベートの確保と、回りの環境から浮かない外観、そして立地を活かし、東京にいなながらリゾートを感じられるような設計をお願いしました。また、ゴルフルームやシアタールームもあり、家の中でも楽しく過ごせるスペースも。私のこだわりはキッチンとウォークインクローゼット。キッチンは対面式でダイニングに居る主人と話しながら調理ができるのがいいですね。来客時など、気になるときは格子戸で圧迫感無く隠せるところも気に入っています。食事は外で済ませることも多かったのですが、この家で暮らしてから料理をする機会が増えました。クローゼットは十分な広さをとり、衣替えの必要が無いように。また、パウダールームへの動線もスムーズです。

運河を見下ろすリビングから見える絶景の都会の風景